

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2023

課題番号：16K12026

研究課題名（和文）発症間もない重篤な障害を持つ脳卒中患者の体験を活かした自立を支える看護方法の構築

研究課題名（英文）Constructing a nursing method that supports independence based on the experience of a patient with a severe disability who has just had a stroke

研究代表者

日坂 ゆかり（Hisaka, Yukari）

岐阜大学・医学部・准教授

研究者番号：30730593

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、発症まもない重篤な障害をもつ脳卒中患者がどのような体験や経験をしているのか明らかにし、急性期での脳卒中患者への看護実践方法の構築を行った。20人の対象者に対して参加観察によりデータ収集し、体験や経験、心理・情動の変化に影響した看護実践も含む要因を分析し、発表した。次に「脳卒中急性期患者への看護実践」の項目を独自で作成し、全国のSCUに勤務する看護師に対して、必要性の認識と実践状況の調査を行った。必要性の認識は因子分析を行い、脳卒中急性期患者への看護実践モデルとして発表し、それぞれの看護実践方法の解説書を国内外で発表した。看護実践状況と看護師の属性による差を分析して論文にて発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

発症間もない重篤な状態の脳卒中患者の体験や経験、その心理・情動の変化に看護実践がどのように関連しているのか研究したことは、患者自身が自身体験を語ることはできなかったため解明されてこなかったが、本研究で発表することができた。また、実際に全国のSCUに勤務する看護師に調査して脳卒中急性期患者への看護実践モデルを構築することができた。これらの研究成果は、看護師への教育に応用され、脳卒中急性期患者への看護実践の質の保証につながると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study sought to clarify the experiences and experiences of stroke patients with severe disabilities soon after the onset of stroke and to construct nursing practice methods for stroke patients in the acute phase.

Data were collected on 20 subjects through participant observation, and factors including experiences, experiences, and nursing practices that affected psychological and emotional changes were analyzed and presented. Next, an original item on “Nursing Practice for Acute Stroke Patients” was created and a survey of nurses working in SCUs nationwide was conducted on their perception of need and practice status. Perceptions of need were analyzed by factor analysis and presented as a model of nursing practice for acute stroke patients, and a commentary on each nursing practice method was published domestically and internationally. Differences in nursing practice status and nurse attributes were analyzed and published in a paper.

研究分野：臨床看護

キーワード：脳卒中 急性期 看護実践

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2014年の日本における脳卒中患者の総数は約1,115,000人であり、日本人の死因の上位である。脳卒中は突然に発症し、死や後遺症につながる可能性がある。脳卒中は、多彩な障害が発生し、介護が必要となる原因疾患の上位である。

脳卒中患者には、発症直後からの治療が早いほど、後遺症が少なく日常生活に戻れる可能性が高いため、迅速な診断と適切な治療が必要である。脳卒中患者に対する発症直後からの専門家のチームによる治療とリハビリテーションは、死亡率を低下させ、退院時の機能回復率を高めるため、看護師も含むチームでの支援が重要である。

発症直後の重度の障害のある脳卒中患者は、意識障害や高次脳機能障害により自身の体験を語るができない。そのため従来の研究では、軽症の脳卒中患者の体験しか明らかにできなかった。脳卒中患者の在宅復帰率や日常生活動作の自立度の向上には、重度の障害をもつ急性期の脳卒中患者の体験を明らかにし、その研究に基づいた看護実践を構築する必要がある。

急性期脳卒中患者に必要なであると認識されている看護実践の諸外国の研究結果の系統的レビューでは、排泄管理、頭蓋内の圧迫領域ケア、嚥下管理、早期運動、肺血栓塞栓症予防の介入、早期抗血小板療法などの看護ケアが必要であるとされていた。しかし、日本では急性期脳卒中患者にどのような観察や看護ケアが必要であるか看護師の認識を調査した研究はない。そのため、日本における急性期脳卒中患者への看護の必要性の認識の調査が必要である。

また、日本の急性期脳卒中患者への看護実践状況の研究は、自施設での看護実践に関する内部報告程度の研究しか行われていないため、日本での急性期脳卒中患者への看護実践状況の調査が必要である。

これらを明らかにすることによって看護教育内容が明確となり、脳卒中急性期患者への看護実践の質の保証ができると考える。

2. 研究の目的

本研究では、発症まもない重篤な障害をもつ脳卒中患者がどのような体験や経験をしているのか明らかにすること、急性期脳卒中患者に必要な看護実践のとは何かを明らかにし、脳卒中急性期患者への看護実践モデルを構築することを目的とする。

3. 研究の方法

重篤な障害を持つ脳卒中患者に対して、可能な限り早期から参加観察を行い、患者の「言動」や「表情」、「その時の出来事」のデータ収集を行った。データを時系列に系統的に整理し、看護実践を含むどのような要因で心理・情動が変化したのかの質的帰納的に分析した。

次にこれらの分析結果の看護実践と脳卒中急性期患者への看護実践に関する文献検討を参考に、独自で、「脳卒中急性期患者への看護実践」の52項目を作成した。この看護実践項目を、全国のSCUに勤務する看護師に、それぞれの項目の必要性の認識と実践状況の調査を実施した。必要性の認識のデータは、探索的因子分析を行った。実践状況は看護師の属性による差の検定を行った。

4. 研究成果

発症まもない重篤な障害をもつ脳卒中患者がどのような体験や経験をしているのか、心理・情動の変化にどのようなことが影響しているのかは、20名の参加観察の結果を個々の事例で分析した。意識障害の回復と自己の障害の認識が重大な要因であること、失語症などの高次脳機能障害や片麻痺などの身体機能障害が関連していること、臨床病型による違いがあることを発表した。

急性期脳卒中患者に必要な看護実践のとは何かを明らかにするために、日本全国のSCUに勤務する看護師1040人にアンケート調査を実施し、706名の有効データを分析した。「脳卒中急性期患者への看護実践」の必要性の認識のアンケート結果をもとに探索的因子分析を実施し、第1因子：日常生活動作の再構築、第2因子：患者と家族への精神的・社会的苦痛の軽減、第3因子：身体的変化の把握、第4因子：再発リスクの回避と退院支援、第5因子：セラピストとの協働、第6因子：身体的苦痛の軽減、第7因子：重篤化回避、第8因子：適切な身体管理の8因子を明らかにすることができた (Figure 1)。



Figure 1. Conceptual diagram of nursing care for patients with acute stroke

更に、実践状況と看護師の属性による差の検定を行った。主な結果は、脳卒中急性期患者への看護実践の状況と認定看護師や専門看護師の資格の有無の比較では、第3因子：身体的変化の把握で有資格者が有意に高かった。また、SCUの病床数での差は、1~9床の群が第5因子：セラピストとの協働が有意に高かった。更に所属施設の病床数が多い方が有意に高く、急性期脳卒中患者への看護経験年数では、20年目までは年数が多いほど有意に高かった。この結果は、看護師への脳卒中急性期患者への看護実践の現任教育に役立つと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 山本直美, 杉浦 圭子, 登喜 和江, 日坂 ゆかり, 山居 輝美, 岩佐 美香, 山添 幸	4. 巻 16
2. 論文標題 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師実践活動評価尺度(Certified Nurse in Stroke Rehabilitation Nursing Assessment Scale:CN-SRNAS)の開発 信頼性・妥当性の検証	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保健医療技術学部論集	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 登喜 和江, 山本 直美, 岩佐 美香, 山居 輝美, 日坂 ゆかり, 杉浦 圭子, 山添 幸	4. 巻 18
2. 論文標題 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の研修受講におけるキャリア形成の様相(5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 千里金蘭大学紀要	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 日坂ゆかり, 塩田和代, 吉田芳美, 本江真人, 弓削麻依子, 山川直之, 山崎皓太, 奥山拓矢, 宮本麻侑子, 吉田久美子, 植松美和, 大宮剛	4. 巻 37(4)
2. 論文標題 術式別脳神経疾患の術後管理Q&A 77	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Brain Nursing	6. 最初と最後の頁 3-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yukari Hisaka , Hirokazu Ito , Yuko Yasuhara , Kensaku Takase , Tetsuya Tanioka , Rozzano Locsin	4. 巻 18(23)
2. 論文標題 Nurses' Awareness and Actual Nursing Practice Situation of Stroke Care in Acute Stroke Units : A Japanese Cross-sectional Web-based Questionnaire Survey	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health 2021	6. 最初と最後の頁 12800
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph182312800	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 登喜和江, 山本直美, 岩佐美香, 山居輝美, 日坂ゆかり, 杉浦圭子, 山添幸	4. 巻 18
2. 論文標題 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の研修受講におけるキャリア形成の様相	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千里金蘭大学紀要	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉浦 圭子, 山本 直美, 登喜 和江, 日坂 ゆかり, 山居 輝美, 岩佐 美香, 山添 幸	4. 巻 42(2)
2. 論文標題 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の活動への他職種の認識 医師とリハビリテーションスタッフに焦点を当てて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本脳神経看護研究学会誌	6. 最初と最後の頁 115 - 122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日坂 ゆかり, 柿田 さおり	4. 巻 23
2. 論文標題 意識障害と高次脳機能障害や片麻痺のある脳出血患者の発症時からの意識障害の回復に伴う自己の障害に対する認識の変化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本救急看護学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本 直美, 登喜 和江, 杉浦 圭子, 日坂 ゆかり, 山居 輝美, 岩佐 美香	4. 巻 43(2)
2. 論文標題 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の看護活動の実際	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本看護研究学会雑誌	6. 最初と最後の頁 199 - 210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日坂ゆかり	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の活動－大阪府看護協会教育課程の振り返りと看護活動の実際の調査を踏まえて－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本脳神経看護研究会誌	6. 最初と最後の頁 35 - 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日坂 ゆかり, 柿田 さおり	4. 巻 36(7)
2. 論文標題 【これでカンペキ!種類別で徹底理解!ドレナージ管理大事典】ドレナージの種類を覚えよう	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Brain Nursing	6. 最初と最後の頁 666 - 677
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉浦 圭子, 山本 直美, 登喜 和江, 日坂 ゆかり, 山居 輝美, 岩佐 美香, 山添 幸	4. 巻 42(2)
2. 論文標題 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の活動への他職種の認識 医師とリハビリテーションスタッフに焦点を当てて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本脳神経看護研究会誌 (1348-3072)42巻2号 Page115-122	6. 最初と最後の頁 115-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日坂 ゆかり	4. 巻 67(5)
2. 論文標題 脳卒中チーム医療における看護師の役割－脳卒中看護の専門性－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本職業・災害医学会誌	6. 最初と最後の頁 453 - 457
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日坂 ゆかり, 柴田亮子, 櫻井亜由美, 廣田恭子, 高橋美香, 森田秀美, 森田由紀子, 竹内廣美, 樋口泰子	4. 巻 35(8)
2. 論文標題 術後患者さんの訴えと基本対応	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Brain Nursing	6. 最初と最後の頁 4-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日坂ゆかり	4. 巻 34(6)
2. 論文標題 脳神経疾患急性期の看護 知らないわけにはいかない 基本 50ポイント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Brain Nursing	6. 最初と最後の頁 524-528
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takako Minagawa, Ayako Tamura and Yukari Hisaka	4. 巻 4
2. 論文標題 Thoughts of patients who could not undergo fast-acting treatment because of delays in post-cerebral infarction medical examination	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Japanese Academy of Neuroscience Nursing	6. 最初と最後の頁 19-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥谷 恵子, 南川 貴子, 田村 綾子, 日坂 ゆかり, 市原 多香子	4. 巻 4
2. 論文標題 急性期脳卒中患者の手浴による手指掌握運動改善の有効性の検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本ニューロサイエンス看護学会誌	6. 最初と最後の頁 3 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Yukari Hisaka, Hirokazu Ito, Yuko Yasuhara, Kazuyuki Matsumoto, Allan Paulo Blaquera, Kensaku Takase, Tetsuya Taniok
2. 発表標題 Difficulties in nursing practice content and its reasons for patients with acute stroke
3. 学会等名 4th International Conference on Technological Competency as Caring in Nursing and Health Sciences 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yukari Hisaka
2. 発表標題 Inference by participant observation of changes in the feelings of acute stroke patients who have developed global aphasia
3. 学会等名 24th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yukari Hisaka, Hirokazu Ito, Yuko Yasuhara, Kensaku Takase, Tetsuya Tanioka, Tomoya Yokotani
2. 発表標題 Compare between Perceptions of the Need for Nursing and Practice Situation of Nursing for Patients with Acute Stroke
3. 学会等名 3rd Technological Competency as Caring in the Health Sciences 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yukari Hisaka, Keiko Sugiura, Terumi Yamai, Mika Iwasa, Miyuki yamazoe, Naomi Yamamoto
2. 発表標題 General Nurses' Perception of the Activities and Expected of "Certified Nurse in Stroke Rehabilitation Nursing"
3. 学会等名 2020 Taiwan International Nursing Conference Endorsed by ICN (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 日坂 ゆかり
2. 発表標題 脳卒中のチーム医療と地域連携 早期復職を目指して 脳卒中のチーム医療における看護師の役割
3. 学会等名 日本職業・災害医学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本直美 登喜和江 杉浦圭子 山居輝美 日坂ゆかり 山添幸
2. 発表標題 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師実践活動評価尺度の開発
3. 学会等名 第45回日本脳神経看護研究学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukari Hisaka, Takako Minagawa and Ayako Tamura
2. 発表標題 Patient experiences and nursing implications during the 2 weeks after onset of subarachnoid hemorrhage
3. 学会等名 TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山内彩加、日坂 ゆかり、南川 貴子、田村 綾子
2. 発表標題 脳卒中発症後の摂食・嚥下機能に影響する要因
3. 学会等名 第14回日本循環器看護学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上原陽香、田中和夏、日坂 ゆかり、南川 貴子、田村 綾子
2. 発表標題 急性期脳卒中患者の片麻痺に対する手浴による関節可動域への影響
3. 学会等名 日本看護研究学会第31回中国・四国地方会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukari Hisaka, Takako Minagawa and Ayako Tamura
2. 発表標題 The relationship between the degree of recovery to consciousness and awareness of disabilities in acute stroke patients with hemiplegia
3. 学会等名 The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 日坂 ゆかり、南川 貴子、田村 綾子
2. 発表標題 意識障害を認めた急性脳卒中患者の障害の気付きと心理変化の様態
3. 学会等名 第43回日本脳神経看護研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 日坂 ゆかり、南川 貴子、田村 綾子
2. 発表標題 重篤な障害のある脳出血患者の意識障害からの回復過程における心理・情動の変化
3. 学会等名 第25回日本意識障害学会第25回日本脳神経看護研究学会四国部会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 日坂ゆかり, 杉原朋子, 辻岡良輔, 山下敬子, 多田愛子, 小城千絵, 西山陽子, 北原香織, 佐藤春介, 竹本豊, 宮口慶子, 藤本莉律子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 メディカ出版	5. 総ページ数 176
3. 書名 ブレインナーシング2022年2号	

1. 著者名 日坂ゆかり	4. 発行年 2018年
2. 出版社 メディカ出版	5. 総ページ数 239
3. 書名 すぐに使える脳神経疾患患者の標準看護計画	

1. 著者名 日坂 ゆかり, 南川 貴子, 田村 綾子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 照林社	5. 総ページ数 13
3. 書名 エキスパートナース 発症まもない頸髄損傷患者さんの体験と「生きようとする力」を支える看護	

1. 著者名 日坂 ゆかり, 南川 貴子, 田村 綾子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 メディカ出版	5. 総ページ数 3
3. 書名 ブレインナーシング より良い看護への「気づき」につなげる看護場面对応集 転倒した患者への転倒予防に向けての看護	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	田村 綾子 (Tamura Ayako) (10227275)	徳島大学・大学院医歯薬学研究部(医学系)・教授 (16101)	
研究 分 担 者	南川 貴子 (Minagawa Takako) (20314883)	徳島大学・大学院医歯薬学研究部(医学系)・准教授 (16101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関